

2021年度

大学院文学研究科博士課程後期3年の課程入学試験

(春期・一般選抜) 問題

筆記試験 東洋史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

成績

2021年度

大学院文学研究科博士課程後期3年の課程入学試験

(春期・一般選抜) 問題

筆記試験 (東洋史 専攻分野)

I

以下の中国古典文 (A) (B) につき、(1) 貸与された赤鉛筆を用いて句読 (、。) を切り、(2) 現代日本語または現代中国語に訳せ (赤鉛筆は句読を切るときのみ使用)。

(A)

時州鎮戍兵資絹自隨不

入公庫任其私用常苦飢寒虎子上表曰臣聞金湯之固非粟不守韓白之勇非糧不戰故自用兵以來莫不先積聚然後圖兼井者也今江左未賓鯨鯢待戮自不委粟彭城以彊豐沛將何以拓定江關掃一衡霍竊惟在鎮之兵不減數万資糧之絹人十二匹即自隨身用度無準未及代下不免飢寒論之於公無毫釐之潤語其利私則橫費不足非所謂納民軌度公私相益也徐州左右水陸壤沃清汴通流足盈激灌其中良田十萬餘頃若以兵絹市牛分減戍卒計其牛數足得萬頭興力公田必當大獲粟稻一歲之中且給官食半兵賴植餘兵尚衆且耕且守不妨捍邊一年之收過於十倍之絹數時之耕足充數載之食於後兵資唯須內庫五稔之後穀帛俱溢匪直戍士有豐飽之資於國有吞敵之勢昔杜預田宛葉以平吳充國耕西零以彊漢臣雖識謝古人任當邊守庶竭塵露有增山海高祖納之 (『魏書』 薛虎子伝より)

受験記号番号

$$2 \quad / \quad 5$$

(B)

重請

詔封奏

臣以弘治十八年七月由左春坊左諭德兼翰林院侍講陞太常寺少卿兼翰林院侍讀當年遇蒙兩宮尊號恩詔給賜四品誥命至正德四年陞陞禮

部左侍郎遇蒙恩旨給賜三品誥命正德五年

陞禮部尚書遇蒙兩宮徽號恩詔給賜二品誥

命上自祖考下及妻室叨荷寵命存沒有光臣屢

承華袞之褒勉圖犬馬之報然而才不逮志器弗

適時後至正德九年四月終有旨傳出令臣回話

容臣致仕其時促迫就道倉卒束裝雖詔軸所當

珍藏亦不及留意收拾至五月十七日三更時分

行至臨瀘戴家灣地方臣已睡熟舟中火發莫測

去端臣與妻惶惶避災幸免焚溺衣囊家具悉為

煨燼前項詔軸亦皆燒毀殘缺臣不能戒慎之罪

固不可逃但臣之歸也說者謂由於沮止逆濠護

衛之請觸忤錢寧以及於禍而舟中回祿之變濠

實為之則其情亦可憫矣茲幸天日復明

聖皇嗣統臣有披簡召再立清朝近荷覃恩之詔上

及三世秩俱一品天地之德下洽於重泉日月之

光委照於遐槩臣雖殞首捐軀懼未能報稱於萬

一也前此既毀之軸屢欲陳乞重賜而深恐不免

於得寵望蜀之譏但龍鳳之章方將誇示姻族以

為鄉榮綸綍之訓方將傳及孫曾以為家寶一旦

毀壞心實痛之伏望聖慈察其致毀之所由來憐

其重請之非得已勅下該部再給應得之軸重賜

前日之詞所有毀壞舊軸容臣送進內府年終燒

毀則先臣雖在九泉使其有靈猶當感至仁而圖

報况愚臣方備驅策敢昧於覆載生成之大造耶

(『太保費文憲公摘稿』より)

受験記号番号

4 / 5

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no text or other markings on the paper.

後期三年の課程における研究計画を述べよ。